

事業名	生涯を通じた健康づくりへの支援
担当課	健康福祉部 健康づくり支援課

1 事業の概要

基本目標	Ⅲ	基本的な課題	7	施策の方向	①	施策番号	1
当初予算額(千円)	11,340			決算額(千円)	4,710		
事業の概要・目的	①生涯を通じた健康づくりの促進のため、生活習慣病の予備群・有病者を減少させるための人材育成 ②企業等との連携により学童期の子どもと子どもを取り巻く大人に対して、正しい生活習慣の実践と定着化を図る。 ③健康相談、健康教室を実施するほか、年齢や性別等一人ひとりの違いに応じた保健・医療が受けられるよう、保健医療従事者等研修会を実施し、生涯を通じた健康づくりを推進する。 ④県民一人ひとりが自発的に健康づくりに取り組むよう働きかけるとともに、社会全体が取り組みを支援していく機運を醸成するための普及啓発						
数値目標など							
指標名等	特定健康診査の受診率(市町村国保)						
目標	61%(23年度)	実績	35.1%(23年度)				

2 事業の実施結果

<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病予防のための特定健診・特定保健指導を効果的に実施するため、当該事業に従事する医療保険者等の保健師、管理栄養士等の専門職を対象に研修会を8回計365人に実施した。 家族ぐるみで健全な生活習慣の実践を働きかけるための講演会を開催するとともに、市町村においても効果的な取組が出来るよう研修会の開催や啓発媒体の配付を行った。 女性のための健康相談（相談者：242人）や男性のこころと身体の健康相談（相談者：122人）の実施、及び性差を考慮した健康教室を25回（参加者：3,864人）実施したほか、保健医療従事者研修会を5回（参加者：175人）開催し、生涯を通じた健康づくりを推進した。 健康づくりに対する県民の意識を高め、自発的な健康づくりを促すため「健康ちば推進県民大会」（参加者：282人）を開催した。

3 評価

(1)男女共同参画の視点からのチェック(該当する項目のみ記載)

No.	★視点1 企画への参画		説明
	チェック項目	チェック	
1	事業内容や事業の設計が、固定的な性別役割分担を前提としたものになっていないか		
2	企画、立案過程で女性、男性双方が参画したか		
3	性に起因する問題に配慮したか（防災・健康分野に係るもの）	○	性差に配慮した内容にしている。
★視点2 受益の公平性			
No.	チェック項目	チェック	説明
4	女性、男性双方にとって利用しやすい形態（情報提供、時間帯、その他の配慮（育児・介護の便宜）等）となっているか	○	参加者や相談者等が利用しやすい開催日などに設定している。
5	事業を利用・参加した人々の性別データが存在するか	○	一部
6	男女のいずれか一方に偏った受益となっていないか		
★視点3 男女共同参画社会形成への貢献			
No.	チェック項目	チェック	説明
7	固定的な性別役割分担意識の解消に向けた啓発となったか		
8	ワーク・ライフ・バランスの啓発、促進に貢献したか		
9	事業分野における女性、男性の参画の促進に貢献したか		

(2)改善点等

<改善した点> ・研修等については、引き続き性別を問わず参加できる内容とすることとし、平成24年度においては若い世代（中高生、専門学校生）の男女への健康教育事業を積極的に実施した。
<課題・今後改善すべき点> ・特定健康診査・特定保健指導の効果的な実施に向け、受診率を高めることができるよう医療保険者を支援していく。

事業名	総合的な自殺対策の推進		
担当課	健康福祉部 健康づくり支援課		

1 事業の概要

基本目標	Ⅲ	基本的な課題	7	施策の方向	①	施策番号	3
当初予算額(千円)	147,241			決算額(千円)	227,963		
事業の概要・目的	平成23年には、県内において1,443名の方が自殺により命を絶っていることを踏まえ、市町村及び民間団体の協力を得て、相談事業や、人材養成事業などの自殺防止に関する各種事業に取り組んだ。 また自殺対策についての啓発を図るため、交通機関に自殺予防ポスターの掲示をしたほか、市町村等へマニュアルやパンフレットの配布を行った。 自殺対策のための相談や啓発事業を実施する市町村や団体に対して、県から補助金を交付した。						
数値目標など							
指標名等	自殺死亡率 (人口動態統計に基づく人口10万人当りの自殺者数)						
目標	減少を目指します	実績	H24死亡率 19.9				

2 事業の実施結果

<ul style="list-style-type: none"> ・利用しやすい相談事業の実施 夜間や休日に、臨床心理士による対面式の相談を実施した。 ・自殺対策普及啓発事業委託 自殺対策の啓発を図るため、民間のアイデアを活用し、委託事業として交通広告、ポスターによる啓発事業を展開した。 ・自殺対策緊急強化基金補助金 市町村及び民間団体が行う自殺対策事業に対して補助金を交付した。
--

3 評価

(1) 男女共同参画の視点からのチェック(該当する項目のみ記載)

企画・立案過程	★視点1 企画への参画			
	No.	チェック項目	チェック	説明
	1	事業内容や事業の設計が、固定的な性別役割分担を前提としたものになっていないか		
	2	企画、立案過程で女性、男性双方が参画したか		
	3	性に起因する問題に配慮したか(防災・健康分野に係るもの)	○	計画の策定等に当たり、自殺者は男性が多いことを配付資料等により説明した。
	★視点2 受益の公平性			
No.	チェック項目	チェック	説明	
4	女性、男性双方にとって利用しやすい形態(情報提供、時間帯、その他の配慮(育児・介護の便宜)等)となっているか	○	相談窓口について、就業者が利用しやすいよう夜間及び休日に開設している。	
5	事業を利用・参加した人々の性別データが存在するか	○	窓口利用者についての性別データ有	
6	男女のいずれか一方に偏った受益となっていないか			
実施結果・効果	★視点3 男女共同参画社会形成への貢献			
	No.	チェック項目	チェック	説明
	7	固定的な性別役割分担意識の解消に向けた啓発となったか		
	8	ワーク・ライフ・バランスの啓発、促進に貢献したか		
	9	事業分野における女性、男性の参画の促進に貢献したか		

(2) 改善点等

<p><改善した点></p> <p>① 自殺者は中高年の男性が多いことから、日曜日や夜間に相談を受けることができる「ちばこころのキャッチ」の広報やチラシの配布に努めた。</p> <p>② 25年2月に自殺対策パンフレットを刷新したが、各種の相談先として、「男性のための相談窓口」と「女性のための相談窓口」を併せて掲載し配布した。</p> <p><課題・今後改善すべき点></p> <p>内閣府の発表によれば、平成24年の県内自殺者は、前年と比較して人数で201人、率にして13.6%の減少となった。しかしながら、依然として1,242人もの方が自ら、かけがいのない命を絶っている。今後も、効果的な自殺対策を講じ、男女に関係なく自殺者を減少させてまいりたい。</p>

事業名	総合的ながん対策の推進
担当課	健康福祉部 健康づくり支援課

1 事業の概要

基本目標	Ⅲ	基本的な課題	7	施策の方向	①	施策番号	4
当初予算額(千円)	199,286			決算額(千円)	187,778		
事業の概要・目的	がん対策に係る普及啓発を中心に県民、医療・福祉関係者、民間企業、行政が協力しながら、総合的・計画的にがん対策を推進します。						
数値目標など							
指標名等	がん検診の受診率						
目標	増加を目指します	実績	胃がん 女性35.7% 男性44.2% 肺がん 女性41.5% 男性48.9% 大腸がん 女性36.5% 男性37.2% 子宮がん 女性36.9% 乳がん 女性40.6%				

2 事業の実施結果

<p>がん対策に係る普及啓発を中心に県民、医療・福祉関係者、民間企業、行政が協力しながら、総合的・計画的にがん対策を推進した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がん予防展講演会2回（延べ8,592名来場） ・がん検診推進員育成講習会13回（785名受講） ・乳がん啓発ピンクリボンキャンペーン2回 等

3 評価

(1) 男女共同参画の視点からのチェック(該当する項目のみ記載)

企画・立案過程	★視点1 企画への参画			
	No.	チェック項目	チェック	説明
	1	事業内容や事業の設計が、固定的な性別役割分担を前提としたものになっていないか		
	2	企画、立案過程で女性、男性双方が参画したか		
	3	性に起因する問題に配慮したか（防災・健康分野に係るもの）	○	女性特有のがん等に配慮し、事業を企画している。
実施結果・効果	★視点2 受益の公平性			
	No.	チェック項目	チェック	説明
	4	女性、男性双方にとって利用しやすい形態（情報提供、時間帯、その他の配慮（育児・介護の便宜）等）となっているか	○	普及啓発事業は、基本的に参加しやすい土、日の開催としている。
	5	事業を利用・参加した人々の性別データが存在するか	○	事業によっては、受付やアンケートを実施し把握している。
	6	男女のいずれか一方に偏った受益となっていないか		
	★視点3 男女共同参画社会形成への貢献			
No.	チェック項目	チェック	説明	
7	固定的な性別役割分担意識の解消に向けた啓発となったか			
8	ワーク・ライフ・バランスの啓発、促進に貢献したか			
9	事業分野における女性、男性の参画の促進に貢献したか			

(2) 改善点等

<p><改善した点> がん予防展・講演会を同日・同会場にて実施し、また併せて乳がん検診の実施を試みた。休日にショッピングモールという利便性の良い場所で検診を実施したことにより、普段子育て等で時間がとれない30代～40代の女性からも多数の検診希望があり、大勢の方にがんに関する知識を深めていただくことができた。</p> <p><課題・今後改善すべき点> 今年度のがん講演会は女性に特化したもの（乳がん予防）だったので、男性にも多く参加していただけるような内容について検討していくことが必要である。</p> <p>市町村は、検診対象者への個別勧奨、未受診者に対する啓発や受診勧奨をより一層強化するとともに、県は市町村等と連携し、がん検診の仕組みや効果などの普及啓発を進め、受診率の向上に取り組む必要がある。</p>
